



# 山用具の手入れをしよう

## 1) 登山靴について

私達は普段山を歩く時に、いろいろな用具の御世話になりますが、きちんと使用後の手入れをしているのでしょうか。例えば登山靴のベストの状態はどういう時かという山を歩いている時なのだそうです。今の登山靴は実に複雑な素材の組み合わせでできています。歩いていることで素材が活性化し強度を保ちます。では悪い時はどういう状態かということ、車のトランクにいらしておいたりしまったままにしておくことです。なんでこんなことをいうかといいますとね、今年私たちの会山行で靴底が剥がれるという事故が発生しました。昔の登山靴と違って、今の靴は靴底のビブラム、ミドル底、そしてインナー、アッパー（甲の部分）とおおきくわけて四層の部品が張り合わさってできているのです。靴は購入してから5年が耐用年数だそうです。それはさっき述べた四層の張り合わせ部分の接着剤が経年劣化して、接着面の剥離が生じるからなのです。団体行動中にこういう事故が起きると、全体の行動がストップし、少なからず時間をとられます。実は今回のケースは女性会員の方の靴底の剥がれでした。大変失礼な言い方かもしれませんが、一般的に女性は機械や、道具といったものに弱い面があるように思います。無頓着といってもいいのかもしれませんが。反面女性の基本的特質としてきれい好きという、我々男性とは異なる利点があります。山を歩くということは土がつく、水がかかる、泥がこびりつく、石や岩にぶつかる、などいろいろな条件にさらされるわけです。さあここで女性である皆

さんの出番です。そうです。きれい好きな女性の皆さんの特質を大いに発揮するのです。山で靴のトラブルを回避する唯一の方策は手入れです。

手入れの基本は先ず靴をきれいにするということです。だからといってジャブジャブ水で洗っていいわけではありません。やわらかいブラシや布などで汚れを落とし良く乾かします。だからといって天日を当ててということではありません。

風通しのよいところでまる一日くらいかけて乾かします。靴をきれいにする過程で靴の状態を把握できますよね。底のビブラムはすり減っていないか、（ビブラムのゴムが摩耗してくるとグリップ力が減少して思わぬところでスリップする原因になります。）ビブラムとミドル底の間に隙間はないか（あればその部分から剥離が始まるのです）、アッパーとミドル底の間に隙間はできていないか（あればやはりその部分から剥離が始まります）、靴ひもは切れそうになっていませんか。十分に靴が乾いたら次のステップは本当の意味での手入れです。といっても靴にもいろいろな素材が使用されていますので、総花的にこうといえるものではありません。しかし、一般的にいうならばワックスがけと防水スプレーの塗布というのが常識ではないでしょうか。ご自分の靴を良く見て対応しましょう。